

# 分析結果報告書〔2〕 1 / 3

## 1. 2 模擬排水試料 (BOD)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003    2. ISO/IEC 17025(カ`卜`25)    3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	(      ) 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	(      )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり    2. なし

### <分析結果>

測定回数 注1)	分析結果 (mg/L) 注2)	
	検出下限値以上 注3)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 分析用試料のはかり取りから測定までの一連操作を行った回数。

注2) 「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注3) 検出下限値以上は有効数字3桁、検出下限値未満での検出下限値は有効数字1桁で記入する。

### <分析方法等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. JIS K 0102 の 21 の方法    2. その他 (                      )
使用した水	1. 蒸留水    2. 付交換水    3. 超純水    4. その他 (                      )

### <希釈試料の調製に用いた希釈水>

植種の有無 (希釈水の種類等)	1. 植種あり (植種希釈水を使用) <del>2. 植種なし (希釈水を使用)</del> 3. その他 (                      )
植種希釈水を使用した場合の 調製に用いた植種液の種類	1. 下水 (家庭下水、下水排水 (処理水) 又はその上澄み液等) 2. 排水処理でのばつき槽水又はその上澄み液等 3. 河川水 4. 湖沼水 5. 土壌抽出液 (土壌と水) 6. 市販品の植種菌剤を用いて調製 (調製方法について次の設問にご回答下さい) 7. その他 (                      )
市販品の植種菌剤を用いた植種液の調製	
植種菌剤の種類	1. BI-CHEM <sup>TM</sup> BOD Seed    2. POLYSEED-US    3. その他 (                      )
使用した水	1. 希釈水    2. 水    3. その他 (                      )
植種剤製剤と水の混合割合	1. 植種菌剤 1 カプセルに対する水の量 (                      ) mL 2. その他 (                      )
混合液のばっ気・攪はん等	1. ばっ気又は攪はんを行った (                      時間) 2. その他の処理を行った (                      ) 3. 何も行わなかった
植種希釈水の調製までの時間 その他、植種希釈水の調製にあたって留意した点	ばっ気・攪はん等の処理後の時間 (                      時間) (                      )
植種液のBOD	1. (                      ) BOD-mg/L 注1)    2. 測定していない
植種希釈水の調製 (希釈水への植種液の添加量) 植種希釈水の活性 注2)	調製した植種希釈水 1000mL あたりの植種液の量 (                      ) mL  1. 測定した (                      ) BOD-mg/L    2. 測定していない

注1) 測定値を記入する。

注2) JISに規定されているグルコース-グルタミン酸混合標準液 (BOD 220±10mg/L) の測定値を記入する。

# 分析結果報告書〔2〕 2 / 3

## <試料の前処理>

前処理	1. 行わない 2. 行う その方法 ( )
-----	---------------------------

## <段階的な希釈試料の調製>

調製した希釈試料の段階の数	( )
希釈の方法	1. メスシリンダー（有栓形）を使用して希釈 2. メスフラスコ（全量フラスコ）を使用して希釈 3. 培養瓶で直接希釈 4. その他の方法( )
硝化抑制	1. 行わない 2. 行う その方法( )

## <培養の方法>

培養瓶の容量	( ) mL 注1)
恒温 (20±1℃) の方法	1. 恒温器 (恒温室)      2. 恒温水槽 3. その他( )

注1) 異なった容量の瓶を用いた場合には、概略の容量を記入する（例えば、103、101、102mL・・・では、100mL とする）。

## <溶存酸素（DO）の測定>

測定方法	1. よう素滴定法（ウインクラー・アジ化ナトリウム変法） 2. ミラー変法 3. 隔膜電極法 4. 光学式センサ法 5. その他 その方法 ( )
3. 又は4. の方法を使用した場合について	1. 実施している その方法 ( ) 2. 実施していない 3. その他 ( )
飽和溶存酸素の表の修正および気圧（高度）の導入に係る補正等	1. 実施している（その方法： 11. 自動補正      12. 別途塩分を測定後、補正） 2. 実施していない
塩分補正	1. 実施している（その方法： 11. 空気校正      12. 空気飽和水校正 13. 亜硫酸ナトリウム溶液校正      14. 12及び13の両方 15. その他の方法 ( ) ) 2. 実施していない
試料測定前の機器校正	

## <溶存酸素（DO）の測定：滴定法（よう素滴定法又はミラー変法）>（1回目の結果を記入する）

希釈段階 注1)	P 注2)	15分後の溶存酸素の測定		5日後の溶存酸素の測定	
		試料量 (mL)	滴定量 (mL) 注3)	試料量 (mL)	滴定量 (mL) 注3)
1					
2					
3					
4					
5					

注1) 前記<段階的な希釈試料の調製>で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する(5段階を超える場合には5段階まで記入する)

注2) Pは希釈試料中の試料の占める割合（試料/希釈試料）を示す（P値が大きい順に記入する）。例えば、3段階希釈では、1段階：P=0.04（25倍希釈）、2段階：P=0.02（50倍希釈）、3段階：P=0.01（100倍希釈）の順のように記入する。

注3) よう素滴定法では25mmol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量（mL）、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄（II）溶液（硫酸5mLを水100mLに加え、これに硫酸アンモニウム鉄（II）六水和物5.4gを溶かし水を加えて1Lとしたもの）の滴定量（mL）を記入する。

# 分析結果報告書〔2〕 3 / 3

## <測定記録（1回目）>

希釈段階 注1)	P 注2)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の 消費率(%) 注3)	BODの値 注4)
		D1 (15分後の 溶存酸素)	D2 (5日後の 溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

注1)前記<段階的な希釈試料の調製>で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する(5段階を超える場合には5段階まで記入する)。

注2)Pは希釈試料中の試料の占める割合(試料/希釈試料)を示す(P値が大きい順に記入する)。例えば、3段階希釈では、

1段階:P=0.04(25倍希釈)、2段階:P=0.02(50倍希釈)、3段階:P=0.01(100倍希釈)の順のように記入する。

注3)溶存酸素の消費率(%)は(D1-D2)/D1×100として算出する。

注4)BODの算出に用いた希釈試料(希釈段階)に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。

## <測定記録（2回目）>

希釈段階 注1)	P 注2)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の 消費率(%) 注3)	BODの値 注4)
		D1 (15分後の 溶存酸素)	D2 (5日後の 溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

## <測定記録（3回目）>

希釈段階 注1)	P 注2)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の 消費率(%) 注3)	BODの値 注4)
		D1 (15分後の 溶存酸素)	D2 (5日後の 溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

## <試料の保存状況>

保存状況	保存方法等 保存時間 注1) 保存温度	1. 冷暗所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他( ) 約( )時間 約( )℃
------	---------------------------	---

注1)時間単位で記入する(例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--